



Title	法学部国際公共政策学科「情報活用基礎」を振り返って
Author(s)	梶岡, 慎輔
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2011, 12, p. 44-44
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70320
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

法学部国際公共政策学科「情報活用基礎」を振り返って

梶岡 慎輔（大阪大学 大学院国際公共政策研究科 国際公共政策専攻）

1) 講義概要

法学部では、新入生を対象にコンピュータリテラシー向上を目的とする情報活用基礎を前期に開講している。私が担当する講義は法学部国際公共政策学科を対象としており、同学科のカリキュラムを意識して「情報倫理とモラル」「Excel 演習と統計処理」に重点を置いた講義を行った。

2) 講義内容と感想

高等学校で情報科が必修科目となったため、初回の講義では高等学校で学習する内容に関しては簡単な説明にとどめた。2 回目の講義からは授業支援ツール WebCT を利用して出欠確認を行うとともに、2 回目の講義中に WebCT の活用方法ならびに課題提出方法を説明し、Word を用いた文書作成の課題を課して以後の課題を作成するための基礎知識を修得させた。

情報倫理とモラルに関する講義では、情報倫理やモラルに関するビデオ教材を学生が視聴して物事を客観的に捉え、学生自身がその物事について考えることに重点を置いた。例えば著作権保護に関するトピックでは、著作権を侵害することで作家にどのような影響があるのかをビデオ教材や新聞記事を用いて示し、そのトピックの持つ社会的な背景や問題点、問題の解決策や将来のビジョンに関する自身の意見をレポート課題として提出させた。多くの学生が法と自身の経験にもとづく興味深い意見をレポートにまとめており、講義を通じて情報倫理とモラルをより身近に意識するようになったという意見が多く見られた。

Excel 演習と統計処理に関しては、同学科の高年次において統計学などの講義を受講する学生が多いことを見込んで重点を置いた。

Excel 演習と統計処理に関する講義では、Excel で利用できる機能（セルの装飾、Excel 関数、入力規則、グラフ、フィルタ、ピボットテーブルなど）を広く浅く学習するとともに、条件による判定やグラフ・統計処理、ヒストグラムなどによるデータ分析により、データの特徴をどのように取得し、何を分析すれば良いかを学ぶことに焦点を当てた。学生のレポートの中には、グラフから読み取ることのできる情報から元のデータの性質を推察するなど、教員の期待以上のものがあった。

講義の終盤には自由なテーマについて2〜4名のグループごとに PowerPoint による発表を行った。同じことを高等学校でも経験した学生が多く、スムーズに準備を行えた。発表時の学生は生き生きしており、発表の機会を設けて良かったと感じた。発表内容が独創的・個性的なグループが多く、聴衆をひきつけるスキルはどのグループも高いと感じた。

3) 環境について

教室には学生一人ひとりが作業できる学生用端末と教員端末表示用モニタが設置されており、日常の講義では教員端末表示用モニタに提示する教員の操作を学生が模倣・追従することで効率良く学習を進めることができた。

WebCT は、出席管理、講義資料置場、課題提出のために利用した。WebCT の動作可否が端末環境に依存したり Java の読み込みエラーが発生したりするなどの軽微なトラブルはほぼ毎回の講義で遭遇したが、教員と TA がトラブルの対処方法を把握することにより短時間で解決できた。WebCT の特性を理解し、効果的に利用することで、講義および課題提示・採点の効率化が図れると感じた。